

幼 児 の 遊 び

齋 藤 貴 子

A Play in Childhood

by

Takako Saitō

1 従来の研究から

幼児の発達にとって、遊びは大きな役割をもっていることが、従来から指摘されている。この「遊び」についての定義づけも多々試られてきている。ソビエトの心理学者である、ア・エヌ・レオンチェフは、遊びとは「^(引1)動機が過程そのものにあるというような構造をもった活動」であると定義づけている。また、デ・ベ・エリコニン等は、子どもの発達を子どもの「活動」を手がかりにして分析したところ、子どもの各発達段階においては、「主導的活動」とよぶべき活動が発達に大きな役割を演じており、「遊び」は、まさしく、3才から6才頃のいわゆる就学前期における子どもの発達にとっての主導的活動であるという。さらにレオンチェフは、エリコニン、エフ・イ・フラトキナの研究をまとめて、就学前期においては、遊びの中でもこの期の初期にでてくるところの「役割遊び」が、子どもの発達にとって特に重要な役割を果す主導的活動として、重視している。この主導的活動とみなされた「役割遊び」の特徴については、彼が「主導的活動」の特徴としてあげた次の三点にまとることができる。^(引1)「第1に、それは他の新しい種類の活動がその形態で生じ、その内部で分化されるような活動である。たとえば、すでに就学前期に初めて生ずる狭い意味での学習は、最初は遊びの中で生じる。第2に、部分的な心理過程がその中で形成され、あるいは再編成されるような活動である。たとえば、遊びにおいてはじめて能動的な想像過程が形成される。」(しかしながら、彼は、「このことから、すべての心理過程の形成または再編成は、主導的活動の内だけで生じると結論してはならない。若干の心理過程は、主導的活動そのものの中で直接的に形成されるのでもなければ、再編成されるのでもなく、発生的にそれと関連している他の種類の活動の中で形成され、あるいは再編成されるのである。」とも言いそえている。)第3に、これは、「所与の発達段階で見られる子どもの人格の基本的な心理学的変化が最も直接的に左右されるような活動である」と。以上のようにレオンチェフ等は、幼児の遊びを子どもの発達全体との関連づけでとらえている。

一方、西頭三雄氏は、子どもの遊びを「遊びの内容」を横軸に、遊び内容にみられる「ルール」を縦軸にとり、その交錯において個々の遊びを位置づけることを試みた。彼は、この横軸の遊びの種類を決定する際に、サンタ、バアバラ郡、市の社会生活機能分類を参照し、遊びの種類を次のように分類した。

^(引2)
A 日常家庭的活動に関する遊び(お家ごっこ、ごちそう作り、人形ごっこ、パーティごっこ、お客さんごっこ)

B 身近な職業的活動に関する遊び（先生ごっこ，本屋ごっこ，医者ごっこ，タクシー屋ごっこ，美容院ごっこ，郵便屋ごっこ，魚屋ごっこ，弁当屋ごっこ，おもちゃ屋ごっこ）

C 身近な乗り物に関する遊び（汽車ごっこ，自動車遊び，舟遊び，道路・トンネル・車庫作り）

D 身近な自然事象に関する遊び（磁石遊び，動物遊び，虫とり，花つみ，山・川・池・海作り）

E マスコミに関連する人物・事象に関する遊び（仮空的人物に関する遊び，怪獣遊び，ジャングル探検，決闘ごっこ，ロケット基地遊び）

F 美的鑑賞・表現に関する遊び（描画遊び，リズム遊び，絵本鑑賞遊び）

G 既成・伝承的な競技遊び（運動競技に関する遊び（レスリング，サッカー，野球，マラソンなど），伝承的遊び（鬼ごっこ，砂とり，折り紙など））

H その他（遊具のもて遊び，運動的遊び，文字合せ，なわぬけなど）

西頭等が，1968年10月上旬から下旬にかけて，山口県下の幼稚園，保育園10園の園児の自由遊びを無作為に抽出し，観察した結果を上記の視点で分類した結果は，次のようであった。^(引2)「(1)年令と共に増加する遊び—職業的活動に関する遊び，既成・伝承的な競技遊び (2)年令と共に減少する遊び—美的鑑賞・表現に関する遊び，乗物に関する遊び，家庭的活動に関する遊び」であり，「幼児の遊び内容は，年令と共に身近な個人的，家庭的生活から広く社会生活への反映へと拡大されている」と報告している。

このように，レオンチェフ等は，遊びを子どもの発達全体との関連で分析して，遊びは特に就学前期の幼児にとって，発達のすべての面にかかわりをもつというまでではないにしても，発達において，主導的な役割をはたしていると考え，その特性を追求している。これに対し西頭等は，遊びを子どもの発達全体から切り離してその独自の性質を追求しているようである。

2 本研究のねらい

ここでは，新潟県下の保育園の園児の遊びの実態を調べ，子どもの発達と遊びとの関連を考えてみることにする。まとめの方向として，次の視点を設定する。

- ① 保育園園児が7月において好んでやる遊びには，どんなものがあるか。
- ② 遊びにみられる年令の特徴と，遊びの発達とを探ってみる。
- ③ 幼児の遊びが，保育園や地域の生活条件と，どんな関連をもっているか。

3 研究方法，手続

① 調査対象

新潟県下の次の各地域に存在する，39カ所の保育園の3才から5才までの園児を対象とした。地域別と対象園数は，次のようであった。

地 域	新潟市	新井市	上越市	三条市	見附市	加茂市	豊栄市	柏崎市	五泉市	両津市
保育園数	7	3	1	2	2	1	2	1	1	1
地 域	中頸城郡	北蒲原郡	中蒲原郡	南蒲原郡	西蒲原郡	南魚沼郡	岩船郡	佐渡郡		
保育園数	4	3	1	1	6	1	1	1		

② 調査期間

昭和50年7月20日～29日

③ 調査者

新潟青陵女子短期大学幼児教育科1年生（50年度入学）

④ 調査方法

保育園での実習（保育実習1）時に、保育園児が「自由遊び」の時間に好んでやる遊びを観察し、記録する。記録方法としては、遊びの種類及び遊び内容をメモした。

4 結 果

(1) 「遊び」の種類

3才児（年少児）、4才児（年中児）、5才児（年長児）の各年令毎の遊び項目を示したのが表Iである。ここで、遊びの種類をみると、3才児が61種、4才児が70種、5才児が62種で、全体を通しての遊びの項目総数は、95になっている。各年令中、4才児（年中児）の遊び項目数が最も多く、ついで5才児、3才児の順になっている。

(2) 子どもの年令と「遊び」

① 3才児（年少児）の遊び

表Iより、3才児（年少児）の遊び総数は61で、5才児とほぼ同数であり、4才児よりは少ない。各年令中、3才児に最も多く観察された遊びは、ブロック遊び、ママゴト遊び、ブランコ、カゴメ、平均台を使った遊び、ボール遊び、積木遊び、スベリ台を使った遊び、人形遊びであった。その中でも、ブロック遊び、ママゴト、ボール遊び、積木を使った遊び、スベリ台すべりなどが特に多く観察されている。

3才児に多く観察された遊びの内容を調べてみると、次のようであった。ブロックを使った遊びでは、建築物、ロボット、線路、乗物、飛行機などをテーマにした場合と、凹型のブロックに凸型を組み合わせるとか、単体でママゴトに使用するという単純な使い方をする場合とがある。ママゴトでは、役割を決め、3人～4人のグループでやる場合が大部みられる。しかし、その内容は、食物をつくって他児に食べさせるマネだったり、主題とは無関係な要素を時々もち込んだりしている。積木遊びでは、乗物、汽車、船、家などをつくったり、つくり上げた家で家ごっこをやったりしている。スベリ台では、ふつうにすべる、すべる方から登ってすべる、ねてすべる、立ったままですべる、上からとび下りる、などがみられる。ブランコは、箱ブランコでバスごっこをする。10まで数え、10になるとピタリと止まる。1人乗りのブランコに立ったままで乗る、などの遊び方がみられる。ボール遊びでは、投げる、受ける、ころがす、ボールと同時にとぶなどの様子がみられる。人形遊びでは、着せかえ、グループで人形をだいてイスに腰かけさせる、あやす、などの様子がみられる。

② 4才児（年中児）の遊び

表Iより、遊び総数は、70で各年令中でも最も遊び数が多い。特に4才児に多く観察された遊びとしては、鉄棒を使った遊び、鬼ごっこ（すわり鬼、高鬼、あぶくたった煮えたったなどの変型も含む）、タイヤ遊び、外界の模倣遊び、折り紙、店ごっこ、ジャングルジムなどの体全体を使った遊びや役割遊びがある。そのうちでも、鉄棒を使った遊び、鬼ごっこが特に多く観察されている。

鉄棒を使った遊びでは、足をかけてブラさがる、前まわり（5～6回ぐらいやれる子もいる）などが観察されている。鬼ごっこでは、普通の鬼ごっこのほかに、手つなぎ鬼、座り鬼、鉄鬼、

表I 年齢別にみた子どもの遊び

数字は報告数で()内は男子や女子に特に観察されたという報告数である。

遊びの名称				3才児	4才児	5才児	遊びの名称				3才児	4才児	5才児
1	ブロック*			46(男7)	18	13	32	タイヤ遊び			6	9	3
2	本読(絵本・物語・童 み(話・図鑑など)			14	13	18	33	つり輪を使った遊 び			1	1	1
3	ママゴト			34(女4)	30(女6 男2)	12(女4)	34	自然物(木の実,木の葉) を集めたり,並べたり			1		
4	鉄棒を使った遊び			6(男2)	20(男2)	15	35	虫とり(昆虫など)			1	1	1
5	砂遊び			9	5	3	36	外界の模倣(テレビの マネ,海で泳ぐマネ)			4	9	8
6	ブランコ			14	10	5	37	折り紙(ハンカチ, チリ紙,千代紙)			6	7	4
7	カゴメ			14	12	9	38	スベリ台			26	19	10
8	手遊び,指遊び			3	5	7	39	かくれんぼ			2	6	8
9	平均台を使った遊 び**			6	4		40	縄とび			6	8	13
10	高いところから飛 びおろる			2	1	1	41	お母さんごっこ			1		
11	ボール遊び			24	22	21(男1 女2)	42	店ごっこ			4	7	
12	おにごっこ			16	17	12	43	電話ごっこ			1(女1)		
13	手つなぎオニ			2	1	1	44	お家ごっこ				3	
14	すわりオニ			1	5		45	保育所ごっこ,先 生ごっこ				3	1
15	鉄オニ			1	2		46	ロープで電車ごっ こ					1
16	にがしオニ			1	2		47	踊る(レコードに 合わせて)			1	1	1
17	ガラクタ遊び			1			48	運搬遊び			1	2	2
18	スクーターのり			1			49	トランポリン			6	14	15
19	木オニ				1		50	輪投げ			1	1	1
20	かくれオニ				1		51	ジャングルジム			3	7	6
21	高オニ				2		52	綱のジャングルジ ム				2	1
22	ダルマさんがころ んだ			1		2	53	鉄はしご				1	
23	鬼ごっこカゴメ			1			54	大小の輪を使った 遊び			1	1	
24	あぶくたった煮え たった			4	7	4	55	つるつるお山			1		1
25	ハンカチおとし				6	7	56	飛行機とばし			2	1	
26	影おに				1		57	シーソー			1	2	1
27	花いちもんめ			5	10	11	58	楽器遊び(オルガ ン,ハーモニカ)			3	2	2
28	積木			28	23	17	59	自動車のり			2		
29	粘土			6	5	3	60	自転車のり				1	
30	絵かき遊び			3	7	12	61	怪獣のおもちゃを 持つ			1		
31	花つみ			1			62	水遊び			3	1	3

遊 び の 名 称				遊 び の 名 称			
	3才児	4才児	5才児		3才児	4才児	5才児
63	にらめっこ	1		80	ローラースケート	1	1
64	あずき	2	2	81	とび箱	2	3
65	通リゃんせ		1 1	82	すもう	1	3
66	ロンドン橋渡ろう	1	1 1	83	柔 道		1(男1)
67	人間鉄棒(保育者の腕を 支えにして回転する)	1	1	84	パズル	1	1
68	人間木のぼり(保育者の 体によじのぼる)		1	85	登はん棒のぼり	1	1
69	ぐるぐるまわし		1	86	筒 遊 び	1	1
70	おはじき	1	1	87	ゴムとび	1	1
71	人形遊び	5	2 1	88	動物の観察(虫など)	1	
72	指人形(見る, 演 じる)	1		89	競 走		8
73	つな登り	1	2 1	90	三輪車で競走		1
74	棒のぼり		1	91	木 登 り		1
75	ゆうれいごっこ	1		92	ジャンケン遊び		3
76	自動車を手で走ら せる	1		93	あやとり		2
77	ノコギリギコギコ (草ずもう)		1	94	ギョコンパッタン		1
78	劇 遊 び		1 1	95	たいこ橋わたり		1
79	マット遊び		1 6				

* アイスプラス, モノブロック, キングブロック, セブンブロックなどを含める。

** 上を歩く, 積木をわたらせる, ボールをころがすなど

逃がし鬼, 木鬼, 隠れ鬼, 高鬼, ハンカチおとし, 影鬼, あぶくたつた煮えたつたなど, 普通の鬼ごっこに別のルールが付け加わって複雑化したものも観察されている。

③ 5才児(年長児)の遊び

年長児の遊び総数は, 62で, 4才児よりも少い。各年令中, 年長児に特に多く観察された遊びとしては, 本読み, 手遊び・指遊び, 絵かき遊び, かくれんぼう, ナワとび, マット遊び, すもう, かけっこ, ジャンケン遊び, などがある。また, 年中児と同様に多く観察された遊びとして, ハンカチおとし, 花いちもんめ, トランポリン, とび箱を使った遊びなどがある。以上から, 年長児の遊びを特徴づけるものとして, 知的遊び, 役割遊び, 既成の遊具を使った複雑な運動遊び(ナワとび, トランポリンなど), 競争的要素を含んだ遊びをあげることができる。

このうち, 本読みは各年令中最も多く観察されただけでなく, 絵本でも年少児と異って「植物に関する」ものなどが選ばれたり, 童話, 物語, 図鑑などを手にとって他児(年少児)に読んであげるなどの変化がみられた。手遊び・指遊びでは, 3才児にアルプス1万尺, ずいずいずっころばし等が, 4才児にオナベよオナベよ, おちゃらか, 竹やぶの中からゆうれいが等が, 5才児にアルプス1万尺, みかんの花, おちゃらか(勝敗を決める要素が含まれている)等が観察されている。絵かき遊びでは, 3才児の場合, 花, 人形, 顔などを描いて, しかも描いてしまっただけから意味づけをすることがあることも報告されている。4才児の場合, 人形, 女, 動物などに関するものを描いている。5才児の場合, 家, ゴレンジャーなどが描かれている。「かくれんぼ」

については、特に年齢によってそのやり方が異っていたという報告はなかった。ナワとびは、3才児の場合、1人がナワを床の上で動かして他の者がそれに当らないように体を動かすというような内容のものが多いようである。4才児になると、1人とびを続けて4回ぐらいとんだり、大波小波をやったりしている。5才児になると、大波小波や1人とびや2人とびを7回ぐらいやったりしている。マット遊びでは、マットの上で回転をする、基地をつくるなどの遊び方がみられる。ジャンケン遊びでは、チームに分かれてやるとか、平均台の上で両方から進んだ者どうしが真中でジャンケンをし、負けた者が退くというような遊びが観察された。

(3) 遊びにあらわれた季節性、地域性

遊びの種類項目95のうち、特に夏の遊びと考えられるものとして、虫とり、水遊び、草ずもう、ゆうれいごっこ（強いて含めて）を挙げることができる。しかし、いずれも観察例が少なかった。又遊び項目からは、地域の特徴は見出し得ない。季節性、地域性は、他の季節に於ける遊びや、他地域の保育園児の遊びと比較することによって、明瞭になり得るのかもしれない。

5 ま と め

① 全体を通して、3才以上の幼児の遊びが、「遊具を使った遊び」→「役割遊び・運動遊び」→「知的な遊び・競争的要素を含んだ遊び」へと発達していくことが仮定される。特に、4才児は、「遊び」が多様に分化し発展する時期であることが推察される。

② 各年齢児に多く観察された遊びは、ブロック遊び、ママゴト、ボール遊び、鬼ごっこ、積木遊び、スベリ台遊びであった。ここから、各年齢におけるこれらの遊びを分析すれば各年齢の遊びの特徴がより明確に把握されるように思われる。

③ 今回とらえられた遊びの年齢的特徴について。3才児の場合、この年齢児のみに観察された遊びとして、ガラクタ遊び、スターターのり、鬼ごっこカゴメ、花つみ、自然物集め、玩具の自動車の乗りまわし、怪獣の玩具を持った遊び、にらめっこ、指人形、ゆうれいごっこ、玩具の自動車を走らせる、遊びなどがあつた。総じて、3才児の遊びは、遊具を用いた単純な内容の遊びが多い。つぎに4才児は、遊びの種類も多く、特に「役割遊び」が増えており、体全体を使った遊びもかなり多い。ここから、4才児期は、遊びが多様に分化する時期ではないかと考えられる。5才児は、知的遊び、役割遊び、既成の遊具を使った複雑な運動遊び、競争的要素を含んだ遊びが各年齢中で、最も多く観察されている。5才児のみに観察された、柔道ごっこ、競走、三輪車で競走、木登り、ジャンケン遊び、あやとり、ギョコンバタン、たいこ橋わたりなどにもその傾向が認められる。また、遊びには、特に男子に好まれる遊びとか女子に好まれる遊びがあるようである。例えば、ブロック遊び、鉄棒を使った遊びは男子に、ママゴトは女子に好まれていたという報告があつた。しかし、例数はいずれも少ない。

④ どの年齢の遊びにも、顕著な季節性、地域性は認められない。

⑤ 既成の遊具を使った遊びが各年齢に多い。反面、手づくりのおもちゃや自然物を利用した遊びなどは、殆んど好まれていないようである。このことは、自然物をフルに利用して遊ぶことが、保育園の立地条件の悪さや保母の手の少なさなどに制約されて不可能なのか、それとも、今の子どもは自然物を工夫して遊ぶことが苦手になっているということからくるのか、あるいは他の原因からくるのかどうか、考えてみる必要がある。

⑥ レオンチンフ等は、就学前期における主導的活動が「遊び」であると指摘している。データーにみられる遊びの多様性は、この説が支持し得るものであることを示している。

⑦ 西頭等の1968年の調査結果に照らし合わせると、若干違いがみられる。たとえば、職業的

遊びが年齢とともに増加するという結果はでておらず、又美的・鑑賞的・表現に関する遊びが年齢とともに減少するのではなく、むしろ増加さえしているような傾向がみられる。

<引用文献>

- 1) レオンチェフ（松野豊・他訳）『子どもの精神発達』明治図書，1967
- 2) 西頭三雄児『遊びと幼児期』福村出版，1974